

玄宗の隸書

— 「紀泰山銘」と「石台孝經」 —

【観峰館オンライン講座】第21回 観峰館所蔵品を鑑賞しよう（6）

根來 孝明（観峰館 嘱託研究員） 2021/12/23



観峰館本館1階の展示風景

隸書

『旺文社世界史事典』三訂版「隸書」の解説

- 篆書（てんしょ）を簡略化して筆写に便利にしたもので、漢代に広く用いられた。前漢に使われたものを古隸，後漢（ごかん）に使われたより装飾的なものを八分という。
- <https://kotobank.jp/word/隸書-151275>
- ※前漢（前202～8） 後漢（25～220）

君諱全字景完
敦煌效穀人也
其先蓋周之胄
武王秉乾之機
崩伐殷商既定
爾勲福祿攸同
封弟叔振鐸于
曹國曹氏為秦

「曹全碑」
後漢時代
中平2年（185年）刻
30.0×19.8cm
觀峰館藏

玄宗「紀泰山銘」

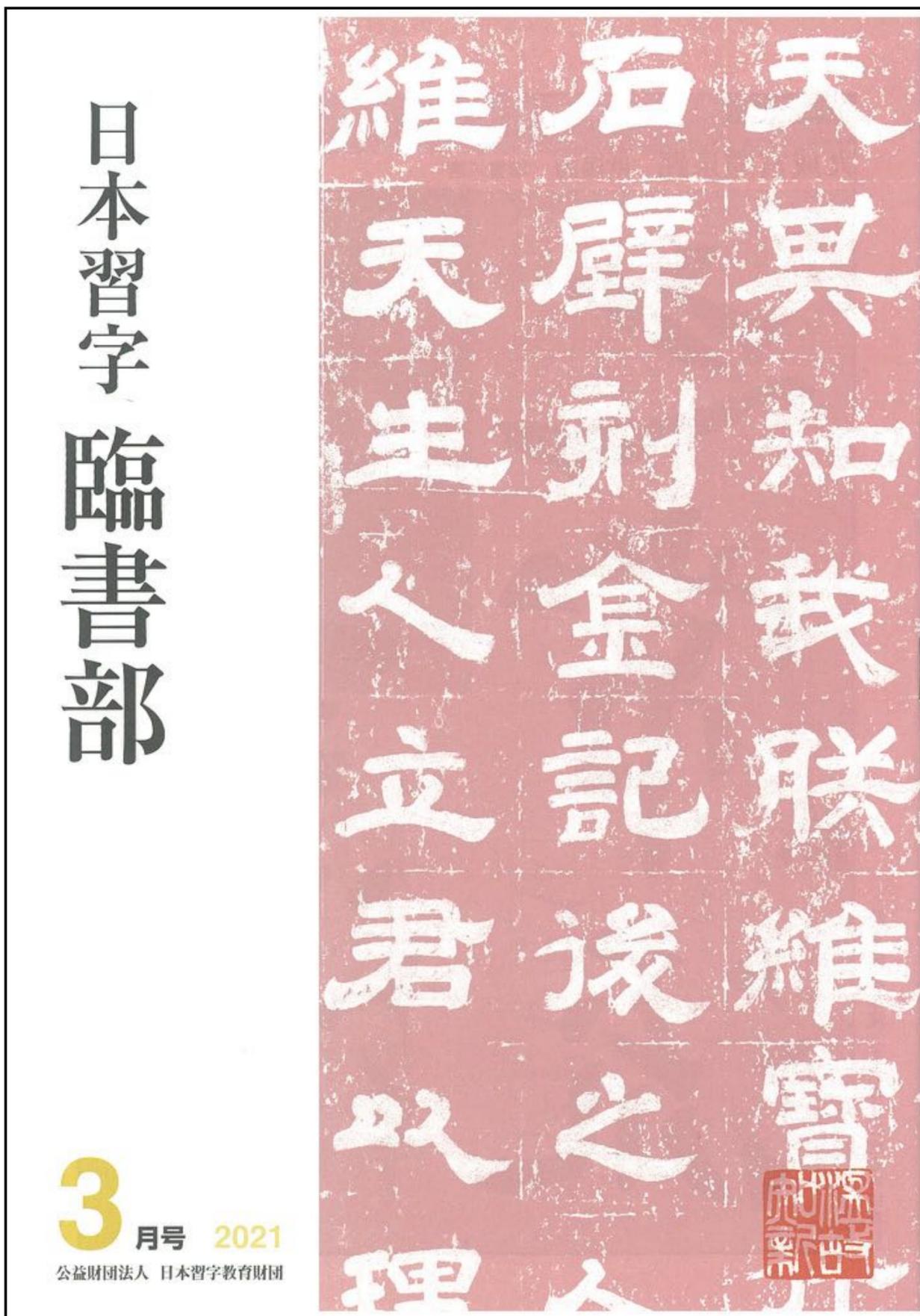
- ・「紀泰山銘」は、唐の玄宗皇帝（685～762）が封禪（皇帝の即位を天と地に報告する儀式）を行った時に刻された碑。
- ・唐時代 開元14年（726）刻
- ・高さ13.2m、横幅約5.3mの岩壁に約1,000文字が刻される。
- ・太く力強い姿の隸書は、玄宗の代表作であり、また、唐代隸書の代表作でもある。



観峰館本館1階で展示している「紀泰山銘」の拓本

玄宗 「紀泰山銘」

- ・ 「紀泰山銘」は、唐の玄宗皇帝（685～762）が封禪（皇帝の即位を天と地に報告する儀式）を行った時に刻された碑。
- ・ 唐時代 開元14年（726）刻
- ・ 高さ13.2m、横幅約5.3mの岩壁に約1,000文字が刻される。
- ・ 太く力強い姿の隸書は、玄宗の代表作であり、また、唐代隸書の代表作でもある。



日本習字 臨書部
2021年3月号
表紙「紀泰山銘」
※課題ではありません

泰山

『世界遺産詳解』 「泰山」の解説

- 1987年に登録された中国の世界遺産（複合遺産）。山東省中部、魯中山地の西端部を占める、標高1533mの玉皇頂を主峰とする山岳、及びそれに連なる山脈で、周長約80kmが登録範囲になっている。
- （中略）また、俗説では、泰山は人間の生死、寿命、官位、死後の審判を司るとされ、生前の罪を処断し、罪を犯した者は地底の獄に送り懲罰するという、仏教の閻魔大王とよく似た冥府（死後の世界）の神と信じられてきた。
- さらに、秦の始皇帝が泰山で封禪(ほうぜん)の儀式を行って以来、泰山で行う封禪の儀式は皇帝の資格を得た者の最高の儀礼とされてきた。このように、泰山は古くから多様な信仰や儀式の対象となってきたことから、中国の歴史の中にたびたび登場する山である。（後略）
- <https://kotobank.jp/word/泰山-557069>

竹村則行「玄宗「紀泰山銘」と唐代隸書」

『文学研究』第110輯、九州大学大学院人文科学研究院、2013年

- …してみれば、玄宗の泰山封禪は、洛陽を出発と帰還の拠点にして足掛け三ヶ月に上る、実に開元の聖世に相応しい皇帝一行の大旅行であった。
- 玄宗は、翌開元14年（726）7月、洛陽において今回の泰山封禪を総括して「紀太山銘」を隸書によって揮毫し、使者を遣わして泰山山頂にある大観望の屏風岩に刻石させている。

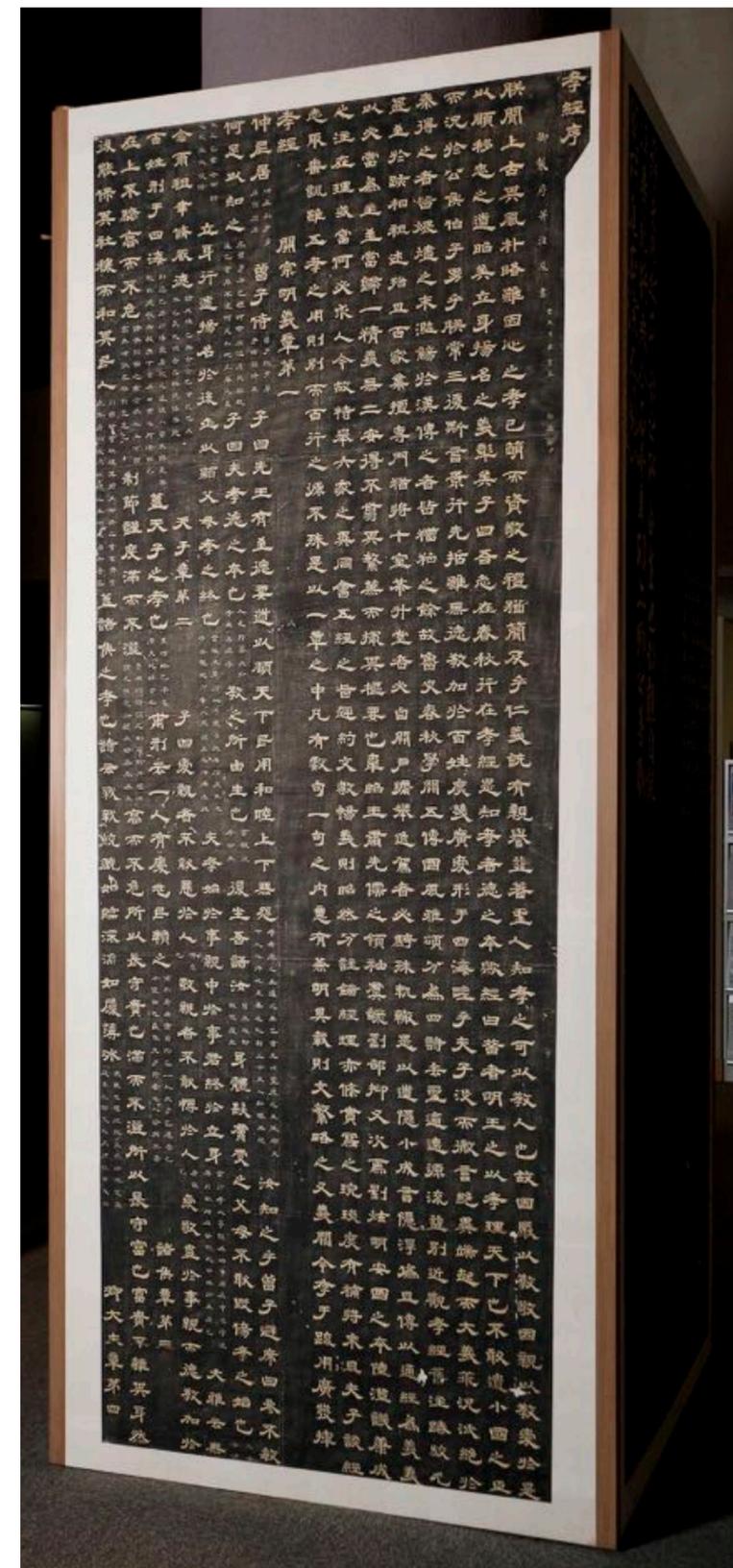
十月朕宅帝位
有四海載

御製泰山銘
御書

玄宗「紀泰山銘」
唐時代
開元14年(726)刻
75.7×43.4cm
觀峰館藏

玄宗「石台孝経」

- 唐時代 天宝2年（745）刻
- 内容は、玄宗自らが「孝経（こうきょう）」に注釈を付けたもので、現代の私たちがついつい忘れがちな「孝」の精神が説かれています。
- 例えば、「身体髪膚（しんたいはっぷ）之を父母に受く、あえて毀傷（きしょう）せざるは孝の始なり」という文章があります。これは「自分の体は、お父さんやお母さんにもらったものだから、傷つけないように大事にしないとけません、それが親孝行のはじまりです」という意味です。ステキな言葉ですよ。
- また、この拓本の文字の中にある「民」と「治」という漢字は、最後の画数が欠けています。「あれ、書き忘れたのかな？」と思うかもしれませんが、これは太宗・李世民と、高宗・李治の諱（いみな）を避けるためのものです。当時は、皇帝の名前を呼ぶことが恐れ多い時代でしたから、最後の画数が書かれていないのです（これを欠画といいます）。
- 観峰館Facebook（2020年7月26日）<https://www.facebook.com/KampoMuseum/posts/123519522758666>



観峰館本館1階で常設展示している「石台孝経」の拓本

孝経

『世界大百科事典』第2版「孝経」の解説

- 孔子の弟子の曾子の作と伝えられる儒家の古典のひとつ。《論語》とならんで五経につぐ地位があたえられた。
- 孔子と曾子の対話の形式にかりて、天子から庶人にいたるまでの各階層それぞれの〈孝〉のありかたが説かれ、また〈孝〉の徳が〈天の経、地の義、民の行〉と天地人の三才をつらぬく原理として形而上化されている。
- 〈孝〉は儒教倫理の中心であり、かつ《孝経》は短編でしかも《詩経》の引用を多くふくんでいて暗誦にたやすかったから、知識人家庭では《論語》とともに《孝経》を幼童の教育に用いた。
- <https://kotobank.jp/word/孝経-61728>

欠画

『世界大百科事典』第2版「欠画」の解説

- 欠筆（けっぴつ）、欠字（かけじ）ともいい、闕画とも書く。
- 中国唐代におこり、長上の者の諱（いみな）（実名）に用いられた文字と同一の文字を使うことを遠慮し、文字（漢字）の一画を省略することをいう。避諱の一つ。筆順で最後の画を省くことが多い。宋代に多く、清代にも及んだという。闕字。
- <https://kotobank.jp/word/欠画-490354>



※諱＝生前の実名。

太宗（598～649）の諱が李世民なので、「民」の最終画を欠く。

孝經序

御製序并注

及書

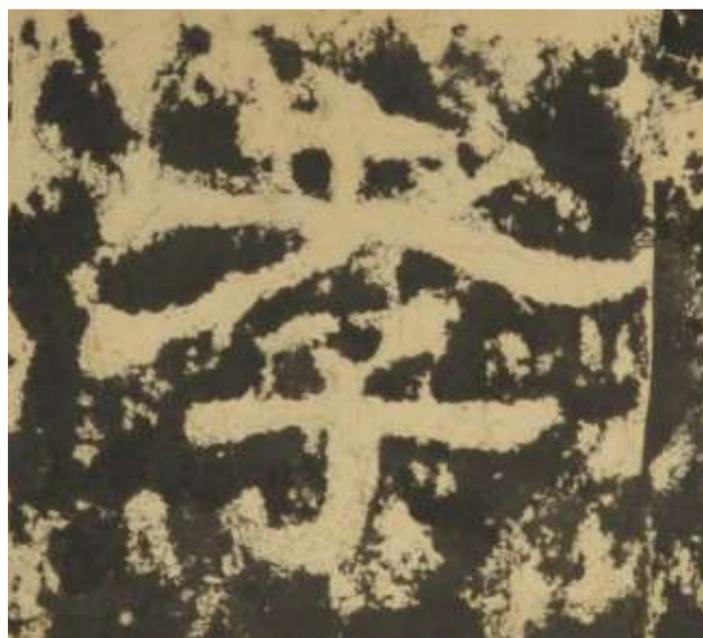
皇太子臣亨奉

勅題額

朕聞上古冥

風朴略雖因

玄宗「石台孝經」
唐時代
天寶2年(745)刻
44.8×25.5cm
觀峰館藏



「曹全碑」
後漢時代
中平2年（185年）刻

玄宗「紀泰山銘」
唐時代
開元14年（726）刻

玄宗「石台孝經」
唐時代
天寶2年（745）刻

竹村則行「玄宗「紀泰山銘」と唐代隸書」

『文学研究』第110輯、九州大学大学院人文科学研究院、2013年

- ・ …「玄宗が楊貴妃を酷愛した為に、それ以後の玄宗の隸書体にも楊貴妃の豊満さが漂うようになった」とは、一見するところ、余りにも極論暴論であるように思われるが、現実の政治履歴がそのように推移している以上、王世禎説をむやみに否定することはできない。これとよく似た表現に、「玄宗は開元期は熱心に政務に精勤したものの、天宝期になると楊貴妃を寵愛して政治に倦み、遂に安祿山の乱によって国勢を傾けるに至った」という通説がある。
- ・ (中略) その玄宗が善くした隸書体による開元の「紀泰山銘」と天宝の「石台孝経」を比較してみると、あたかも書体の比較を通して、政治と同様、開元期と天宝期の国風の違いが刻明に現れているように筆者には思えるのである。

来月の観峰館オンライン講座（予定）

2022年1月は、下記の講座を予定しております。

中国絵画の画題

—吉祥のメッセージ—

講 師：瀬川 敬也（観峰館 学芸員）

日 時：2022年1月12日（水）

10：30～（約45分）

石碑には何が書かれているのか

—顕彰碑を例に—

講 師：瀬川 敬也（観峰館 学芸員）

日 時：2022年1月26日（水）

10：30～（約45分）